

国際交流特別委員会

1. 成立までの経過

昨年マニラで行われた国際家政学会の世界会議以後、家政学会会員の中から国際的交流の場の充実に望む声が強くなり、矢部会長も以前から積極的に進めべきだとの意向をもたれていたこともあって、社団法人化の動きが本年度から活発になったことにもない。

副会長や渉外理事らから、国際交流研究委員会の設置を進めては、との動きになった。3月26日に準備会の第1回会合が日本女子大で開かれ、研究委員会規程案をつくって、4月の理事会に提出したところ、学会の事業として進めるための特別委員会を設置することとなり、5月の理事会では特別委員会の1つとして、国際交流の委員会をつくることになった。つづいて5月30日、第2回の国際交流委員会準備会がもたれ、国際交流特別委員会規程案を作成し、6月の理事会に提案した。これが7月の理事会で認められ、この間、国際家政学会^{協会}会員の募集や、学会誌への記事掲載などを行って、現在にいたっている。

2. 委員会の目的

国際交流特別委員会の目的は、規程によると「会員の国際交流のための意識をたかめ、家政学を通して国際協力と、国際的感覚をもたせた人材の育成を目的とする」となっている。

3. 今後の課題

全国に在住する委員の連絡を密にし、情報や活動についての組織化をはかること、会員の意識と能力を高め、国際的な役割をはたせるよう努力すること、国際家政学会における日本家政学会の対応などを課題と考えている。